

滝川高校SSH通信

発行：2020年1月9日 特別号

道外研修(宮城県)5日目

報告者：1年F組 坪谷 拓武 & 1年D組 本川 花帆

〔防災巡検〕多賀城市内街歩き

多賀城市内街歩きでは、多賀城高校を視察した後、タブレットをもって市内を回りました。タブレットには今歩いている場所の震災当時の状態を見ることができました。実際にその場所に立ち、その場所の震災時の姿を見ることで、震災の恐ろしさを再認識させられました。



図1 多賀城高校内図書室
災害関連の特別コーナー



図2 (左)
多賀城高校が市内に設置した津波の到達点を表す看板と、実際に設置された様子。
公道で、津波跡が、頭上を軽く超えているのが分かる。



図3 津波の跡がくっきりと残る駐車場の壁

荒浜小学校

荒浜小学校は震災当時その周辺住民の避難場所となりました。津波が襲った後は植えてあった松や車などが一階廊下に突き刺さっていたそうです。また、避難してきた住民やその場にいた小学生は三階から四階に避難、屋上から自衛隊のヘリで救助されたそうですが、小学生を全員避難させるのに次の日の朝の5:00までかかり、大人たちは歩いて避難したそうです。



図4 荒浜小学校施設見学①
震災遺構となった荒浜小学校の校舎を案内して下さった地元の人。当時の廊下の様子を話されている。



図5 荒浜小学校施設見学②
現地の大学生と、かつての住人により作られた、震災前の荒浜小学校周辺の模型。流された約800世帯の住宅、そして一軒一軒の住人の名前が書かれている。



図6 南三陸海岸
約8メートルもの堤防。海が見えなくなるほど、高くそびえ立っていた。



図7 海岸近くにある慰霊の像。たくさんのお名前が刻まれている。